

しみずの教育 ちよつといい話

【平成30年6月号】

清水小学校

校長 高井正樹

運動会

みんなの願いが通じ、素晴らしい天気の下で運動会を実施することができました。子どもたちは、2週間以上にわたって一生懸命練習してきた成果をすべて出し切り、心に残る最高の運動会を創り上げました。連覇を果たした白組も、惜しくも敗れた赤組も、最後の最後まで全力を尽くして戦い抜いた素晴らしい運動会でした。



読み聞かせ会



毎月1回、五月会の皆さんによる読み聞かせが行われています。

子どもたちはお話の世界に引き込まれ、瞳を輝かせて聞き入ります。

毎月19日は、しみず「読書の日」ですね。わずかな時間でも、テレビを消して家族一緒に読書をする時間をつくってみるのも、素敵なことですね。

ゴミ拾い登校

児童会事務局の呼びかけで、全校児童が「ゴミ拾い登校」をしました。子どもたちは、それぞれの通学路に捨てられているゴミを、レジ袋などに集めながら登校してきました。学校では、事務局の子どもたちが待っていて、一生懸命ゴミの分別をしました。思っていたよりもゴミの量が多く、驚きでした。

ゴミのポイ捨てを無くし、私たちの住む清水町をきれいな町にしていきたいですね。



教育環境整備作業に感謝！

5月20日（日）のPTA「愛校日」の作業にたくさんの方にご協力をいただきました。当日は、学校周辺の清掃や花壇の花植等を行いました。作業のお手伝いに加わってくれた子どもたちもたくさんいました。

また、27日（日）にはおやじの会の皆さんによる労働奉仕作業も（駐車場のライン引き等）していただきました。

子どもたちが元気一杯活動できる環境を、たくさんの方々に整えていただいておりますことに、深く感謝申し上げます。



【PTA「愛校日」作業から】

毎月実施の「移動図書」利用していますか？

学校では毎月2回程度、移動図書の日が設けられ、町の図書館から本が運び込まれ、児童が自由に借りられるといった仕組みがあります。清水町としても毎月19日を「しみず読書の日」として、子どもは勿論、町民の読書活動を推進しています。

ところが、昨年と4年前の御影小の貸出実績を比較すると、減少していることがわかります。今一度、子どもたちの読書活動が充実するよう、学

校としても働きかけをしていきたいと思えます。ぜひ、ご家庭でも子どもたちの「家読」について話題にしていたら幸いです。

年度	平成26年	平成29年
児童数	145人	136人
貸出人数	1089人 (7.5回/人)	673人 (4.9回/人)
貸出冊数	3747冊 (25.8冊/人)	2879冊 (21.2冊/人)



【移動図書を利用する子どもたち】

1・2年生のスペシャル交流会！



4月23日（月）、2年生が1年生に楽しみながら御影小学校のことを知ってもらうための交流会が行われました。

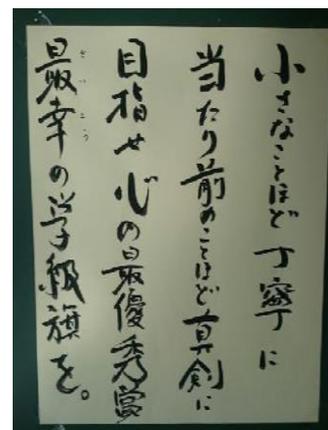
2年生の学年通信に載った「子どもたちの反省」には、「みんな笑顔だったから大成功」、「1年生に教えてあげて楽しかった」、「みんな嬉しそうに帰ってくれて、こっちも嬉しかった」など、素直な感想がたくさん書かれていました。子どもたちはこういった交流を重ねながら、一步一步成長していきます。

体育祭成功に向けて

体育祭の各クラスのテーマや思いを学級旗に込めて担当の生徒たちは、一生懸命に取り組みます。ふと黒板を見ると右のような文章が目に入りました。

「小さなことほど 丁寧に
当たり前のことほど 真剣に
目指せ 心の最優秀 最幸の学級旗と」

誰が書いたのでしょうか？担当の先生でしょうか。本校の伝統でしょうか。生徒たちはそんなことを知ってか知らずか、黙々と作業に取り組んでいます。派手なパフォーマンスは目立って格好いいですが、別の所で仲間の思いを受け止め、学級旗や窓文字の一筆一筆に込めて制作に取り組む生徒がいます。そんな生徒一人一人のナイスプレー！素敵ですね。



(教頭 須藤 正博)

楽しいコミュニケーションを考えよう 気づき、考え、行動する生徒

校長 塚原 雄二

5月31日(木)の5~6校時にスマホ・ケータイ安全教室が実施されました。LINE株式会社の伊藤亮人様を迎え、現在所有している、またはこれから所有しようとしている生徒に対し、携帯電話やスマートフォンの正しい知識やルール・マナーを学ぶために講義していただきました。

現在、御影中学校の生徒の半数以上はスマホを所持していて、その内、約7割以上はコミュニケーションツール「ライン」を使用していることがこの教室でわかりました。その現状を踏まえた上でライン上での適切なコミュニケーション方法を自ら考え、正しい使い方やトラブルを未然に防ぐ方法等について、ワークショ



ップを交えて話して頂きました。特に、コミュニケーションツールを使用する時、言葉やイラストからとらえる感情は人それぞれに違うことがわかり、トラブルの原因になることがわかりました。また、携帯やスマホの使用時に友達からされたら嫌なことを一緒に考え、人それぞれ嫌なことは違うことがわかり、トラブルが発生する仕組みについて学習しました。

楽しいネットコミュニケーションをしていくために、これからはどんなことを考えていけばよいか、大変参考となる「スマホ・ケータイ安全教室」でした。そして一番大切なのは、何より家庭でのケータイ・スマホのルール作りです。家庭でもう一度確認することが大切だと感じました。

<p><u>1. 「いやだな」と感じる言葉は？</u></p> <p>①まじめだね。 ②おとなしいね。 ③一生懸命だね。 ④個性的だね。 ⑤マイペースだね。</p> <p><u>2. 友達からされたらどれがいやか？</u></p> <p>①すぐに返信がない。 ②なかなか会話が終わらない。 ③知らないところで自分の話題が出ている。 ④話をしている時にケータイ・スマホをさわっている。 ⑤自分が一緒に写っている写真が公開されている。</p> <p>○生徒は嫌な言葉の5つの選択肢はだいたい5等分にわかれまして。また、嫌なことの5つの選択肢は「知らないところで自分の話題が出ている」が一番多かったですが、これも意見は分かれました。嫌な言葉や嫌なことは人によって違うことがわかり、相手の嫌な言葉が自分の嫌な言葉とは同じではないことがわかりました。そんなつもりで言っていないが、違う意味でとってしまうことはたびたびあり、これがトラブルの原因であることを学びました。</p>	<p><u>3. メラビアンの法則</u></p> <p>情報を相手に伝えるとき、方法によって伝わり方に違いが生じる。</p> <p>(1)言葉による情報～7%の伝わり方 (2)耳による情報～38%の伝わり方 (3)目による情報～55%の伝わり方</p> <p>○生徒に大切な人にその想いをどのように伝えるか聞いてみました。対面で伝えるというのが一番多かったです。</p> <p>1.テキストメッセージ（メール等） 2.電話 3.対面 4.その他（手紙等）</p> <p>○言葉だけでは想いを伝えるのは難しいことがわかりました。</p> <p><u>4. 学習したこと</u></p> <p>(1)嫌な言葉や嫌なことは人によって違う。 (2)文字だけで伝えると感情が伝わらないので誤解が生じる。 (3)相手の表情がネット上では雰囲気伝わらないので相手が嫌がっていることに気づかない。 (4)迷ったときは誰かに相談する。</p>
--	---

清水高等学校

校長 平野道雄

部活動で躍動、全道・全国での活躍を期待！

5月24日（木）～26日（土）の日程で開催された高体連集約大会をはじめ、各種大会等で清水高校生が躍動しています。現段階で全道大会、全国大会出場・参加を決めている部局は次のとおりです。次のステージでも、思う存分力を発揮し活躍してくれることを期待して

います。

○新聞局

十勝地区の推薦を得て、8月に長野で開催される全国大会に参加

局長 後藤優輝君（帯広出身の3年次生）のコメント

「新聞局は8月から長野県で行われる高校生新聞の全国大会に参加します。初めての経験だらけになるとは思いますが精一杯頑張ります。」

○放送局

十勝地区ラジオドキュメント部門で優秀賞を得て、6月12日（火）～15日（金）に開催される全道大会へ参加

局長 上本桃加さん（音更出身の3年次生）のコメント

「全道に行くのは初めてなので楽しみです。同時に不安です。少しでも良いものを放送できるように頑張ります。」

○卓球部

男子シングルスで、6月29日（金）から北広島市で開催される国体北海道予選大会へ出場

出場者 山口拓城君（帯広出身の3年次生）からコメント

「昨秋の北海道選手権大会では3回戦まで進出しました。今年はそれ以上を目指し、強豪選手と対戦して最後の大会を締めくくります。」

○陸上部

3年次生では清水出身の田村 健君（砲丸投げ、円盤投げ）・上田楓磨（5000m）・吉田 渉（3,000m 障害）、新得出身の佐藤美睦（円盤投げ、やり投げ）、帯広出身の伊藤龍之介（走高跳）、2年次生では清水出身の牧野菜奈さん（110mH）、の個人6名が、6月11日（月）から札幌で開催される全道大会へ出場

出場者代表 田村 健君（清水出身の3年次生）のコメント

「私は、高体連で二種目（砲丸投げ、円盤投げ）で全道を決めることができました。砲丸投げでは記録を更新でき、全道では更に更新できるように頑張ります。」



これまでも国や地域の文化やスポーツの発展に寄与してきた学校の部活動は、授業や学校行事とともに、生徒が人間として大きく成長する場面であることはもちろん、生涯を通じた生きがいや生活の楽しみを得る機会でもあります。今後も地域の方々の応援や支援をいただきながら、取り組んでまいります。

タブレットも使って「十勝若牛アスパラまつり」に出店！

6月10日（日）には、今回で第7回となる「十勝若牛アスパラまつり」に本校生産技術系列の生徒たちが出店しました。今年は、本校の「ウッドクラフトおもちゃ作り」、「カルツォーネ（揚げピッツァ）」の各ブースにタブレットが登場。

「ウッドクラフトおもちゃ作り」のブースでは、受付場所で木製飛行機の作成工程を写真で紹介し、その効果もあったのか、準備した30セットは午前中にほぼ完売しました。

「カルツォーネ（揚げピッツァ）」のブースでは、学校でピザ生地を製造するチームと、会場店舗で調理・販売するチームとが、メールや画像でこまめに連絡を取り合いスムーズな運営と接客に役立てていました。

今回のタブレットは、ICTを活用して教育の質の向上を図る研究のために、先生方の業務や生徒の学習に使用し始めた41台の一部です。今後も様々な場面で活用されることが期待できます。



【「カルツォーネ」のブース】



【作成過程を紹介する受付】



【現場の状況を製造チームに伝える店長】



【「ウッドクラフト」のブース】

清水幼稚園

園長 福原幸江

晴天の中…春の遠足

ここ数年天候に恵まれず、スクールバス移動と清水町文化センターでの親子のゲーム交流が続いていましたが、今年は朝からお日さまが顔を出し、園児同士で手をつないで園を出発することができました。年長組と年中組のペア。年少組は先生たちと手をつないでの春を見つけながらの楽しい一時となりました。



途中の水分補給休憩を、辻屋さんのお店の前でさせていただき、公園で待つお母さんたちのもとへ急ぎました。近づくとも年少組は一齐に「おかーさ〜ん」と何度も大きな声でアピールしていました。

クラスごとの写真撮影のあと、3グループに分かれ『フープくぐり競争』『なかよしゲーム』をし、おやつタイムでは親子でゆっくりすることができました。休憩後は『ネイチャーゲーム』です。公園の木にある動物探して走り回り、お母さんたちの方が疲れたようです。解散後にはお弁当タイムをされていたご家庭もあり、すがすがしい季節を堪能することのできた一日となりました。



気持ちの良い園庭、グラウンドになりました

父母と先生の会主催の環境整備を5月12日（土）に実施していただきました。

野々村会長のあいさつ後に、今年も『ウサギ小屋の土の入れ替え』『側溝の枯葉とり』『タイヤの整備』『グラウンドの除草』『花壇の草取り』の5つのグループに分かれ作業を行ってくださいました。今年は佐藤さんのお父さんが重機をもってきてくださり、うさぎ小屋の作業がはかどりました。参加者22名、子ども12名の皆さんによる1時間30分の作業で見違えるように環境が整いました。天候に恵まれ、どの作業も汗だくになりました。皆さんの整えてくださったグラウンドや園庭で、子どもたちがカいっぱい遊んだり、運動会に向けた練習に取り組んでいます。



教育委員会

運動会に見るラインの美しさ

体育祭・運動会では、躍動する子どもたちの姿に感動させられますが、もう一つ私が見るのは運動会の開始を待つグラウンドの姿です。特に徒競走のコースラインには目がいきます。

御影小学校のグラウンドのラインは写真にあるようにまっすぐに引かれていました。もの見事に仕上がっていました。このようなラインに仕上げるには、すごい技術がいります。実際に引かれてみるとおわかりになるかと思いま



【御影小学校運動会 徒競走コースライン】

すが、なかなかこの様にはいきません。熟練のなせる技と言っていいでしょう。

徒競走でスタートラインに立った時、まっすぐに引かれたラインを見て、子どもたちは「よし！」と気合いが入ります。教師の思いがグラウンドを通し、無言のメッセージとして子どもたちに伝わるのです。ふらふら走ってなんかいられません。運動会に向かう意気込みが一層高まることになるのです。

これは物事に対する「構え」に他なりません。例えば、教室環境も然りです。授業前の黒板がチョークで汚れているようではいい授業などできません。それは授業に対する「構え」ができていないからです。大事なものは物事に取り組む教師の徹底した姿勢です。

御影小学校の運動会のラインの美しさにはとても感動しました。美しい環境は子どもの感性を育みます。

(教育指導幹 清水 彦一)



みどり教育の四季

家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで「12の窓」から
感性あふれ、表情豊かな子を育てる

夏〜かぐわしい香りの中で 志(夢)大きく高く

家庭・学校・地域
今月の取組

かけよう かわそう
みんな元気に
笑顔で挨拶